

子どもの携帯保有とその影響 —五カ国比較調査—

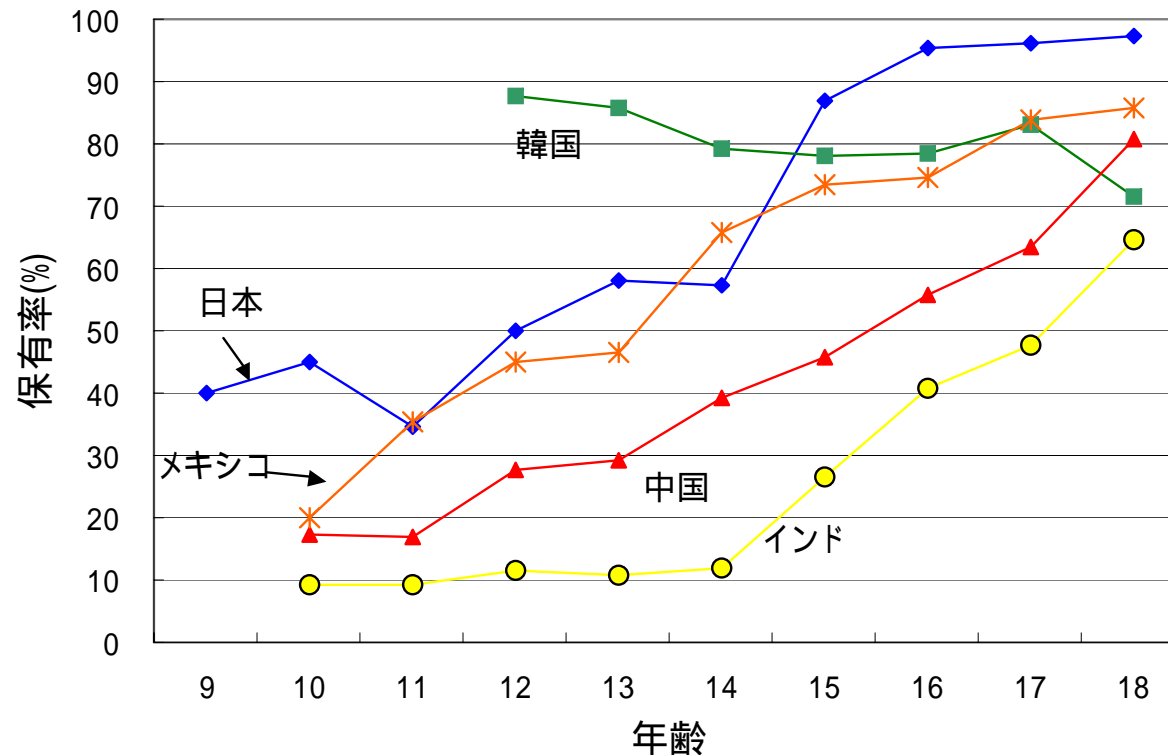
慶応大学経済学部
田中辰雄

調査概要

- GSMAとモバイル社会研究所による共同国際調査。
 - Funded by GSMA, DOCOMO, Korea Telecom Freetel
- 日本、韓国、中国、インド、メキシコの子ども(9歳~18歳)と親。子どもは第一子。各国とも1,000組以上であわせて約6,000組。
- 中国・インド・メキシコでは子どもの携帯保有比率が高くなるようにサンプルを抽出。
 - したがって、保有率の絶対水準の国際比較には意味なし。年齢・所得・友達の携帯保有など他の要因との関連の比較には意味がある。
- 調査方法は面接法(日本以外の4国)とウェブアンケート(日本)。
- これに加えて定性調査として日本とメキシコでインタビュー調査を実施。
- 結果は2009/モバイル・ワールド・コンGRESで発表。
 - 詳しいレポートはモバイル社会研究所ウェブからダウンロード可能。
 - <http://www.moba-ken.jp/topics/090210.html>

子どもの年齢から見た保有パターン

子供の携帯保有率の年齢別の変化



- 韓国が12歳時点ですでに普及率が8割以上と高い。
- インドは普及が高校生になってから始まる。
- 日本、メキシコ、中国はその中間に位置し、年齢とともに次第に普及が進む。
 - 日本は学校の進学時にジャンプして増える傾向があるが、中国はそのようなジャンプがない。

子どもの携帯保有に影響を与える要因

- 年齢： 年齢とともに保有は増える
- 性別： 女子の方が早い？
- 親の所得： 所得が高いと携帯を早く保有するか？
- 親の学歴： 学歴が高い親は携帯を持たせるのか、持たせないのか？
- 教育支出： 教育熱心だと携帯を持たせるか、持たせないか
- 親の年齢： 若い親は携帯を持たせるのでは？
- 家族の人数： 大家族だと携帯保有が遅くなるのでは？
- 生活時間配分 勉強時間が少ないと携帯を保有するか
 - 遊び時間、勉強時間、労働時間
- 情報機器保有状況 ゲームを持つと携帯を持つようになるか？
 - 固定電話、パソコン、テレビゲーム
- 情報メディアとの接触 情報をパソコンから入手すると携帯を持ちたがる？
 - テレビ、新聞、パソコン
- **ネットワーク効果**： 友達が保有したら保有したくなるか？
 - 仲良し3人を思い浮かべてください。その中に携帯を持っている人は何人？

ネットワーク効果(ネットワーク外部性)

- ネットワーク効果(ネットワーク外部性)
 - ユーザ総数が増えると、個々のユーザが感じる便益が増える現象。
 - 例: 電子メールの利用者が日本に1万人しかいないときと1000万人になったときでは後者の方が電子メールから受ける便益が高い。なぜなら多くの人とメールのやりとりができるようになるから。
 - 携帯電話でも多くの友人が携帯電話を持つと、メールをやり取りする相手が増えるので、携帯電話の便益が増える。それゆえ携帯を持つとする。
 - 一言でいえば、友達が持っている则自分も携帯が必要になってくる事。
- ネットワーク効果があるときは、閾値を越えると普及が加速的に進む事が知られている。
- 本調査では次のやり方でネットワーク効果を測る。
 - 「仲良し友達3人の中に携帯を持っている人は何人？」。
 - この数が多ければ多いほど子どもの携帯保有比率が高まれば、ネットワーク効果有りとなる。

推定結果: 全体推定

3人の友人中1人が保有すると
24%の子どもが携帯を持つ

既に持っている友人数 0.24

年齢が一歳上がると保有率が
4%ポイント上がる

年齢 0.04

性別(男子) -0.04

男子の方が保有率が4%ポイント下がる

親の所得 0.01

親の所得がワンランク上がると保有率が
1%ポイント上がる

親の学歴 -

教育支出 -

親の年齢 -

家族の数 -

影響なし

勉強時間 -

遊び時間 -

労働時間 -

固定電話保有 -

ネット接続したPCを持っていると保有率が
14%上がる

PC保有 0.14

テレビゲームを持っていると保有率が
8%上がる

テレビゲーム保有 0.08

テレビ視聴 -

影響なし

新聞購読 -

PCウェブ利用 0.09

ウェブで情報収集していると保有率が
9%上がる

全体推定からわかること

- (1) 子どもの携帯保有の必需財化
 - 所得、学歴、親の世代などは社会階層の基本属性である。子どもの生活時間も子どもにとっては基本的な属性である。それらの影響がない。
 - お金持ちもそうで無い人も、教育のある家もそうで無い家も、世代にもよらず、また子どもの生活時間パターンにもよらず、子どもは携帯を保有している。
 - 意味するところ 子どもにとっても携帯保有が必需財化しつつある。
- (2) ネットワーク外部性あり
 - 仲良し3人のうち一人が携帯を保有すると、24%の子どもが自分も保有する。この数字は大きい。
 - 意味するところ 子どもの携帯保有には加速性がある。また普及は地域別、学校別に偏って進行する。
- (3) 情報通信機器と親和性あり
 - PC、ビデオゲーム、ネット利用のある家庭では子どもの携帯保有比率が高い。
 - 意味するところ 親が情報機器利用に前向きであると子どもに携帯保有を許すからか？

推定結果 ; 国別推定

	日本	中国	インド	メキシコ	韓国
既に持っている友人数	0.23	0.44	0.10	0.20	0.07
年齢	0.04	0.06	0.06	0.08	-0.02
性別(男子)	-	-	-	-0.11	-
親の所得	0.02	-	-	0.09	-
親の学歴	-0.04	-	-	-	-
教育支出	0.05	-	-0.02	-	-
親の年齢	-	-	-	-	-
家族の数	-	-	-	-	-
勉強時間	-	-	-0.02	-	-
遊び時間	-	-	0.02	-	-
労働時間	-	-	-	-	-
固定電話保有	-	-	-	-	-
PC保有	-	0.19	-	-	-
テレビゲーム保有	0.10	-	-	-	0.09
テレビ視聴	-	-	-	-	-
新聞購読	-	-	-	-	-
PCウェブ利用	-0.05	-	-	0.16	-

日本のみ兄弟の有無の効果を調べた
弟・妹がいると携帯保有率が下がる。

理由: 経済力?
家庭内コミュニケーション?

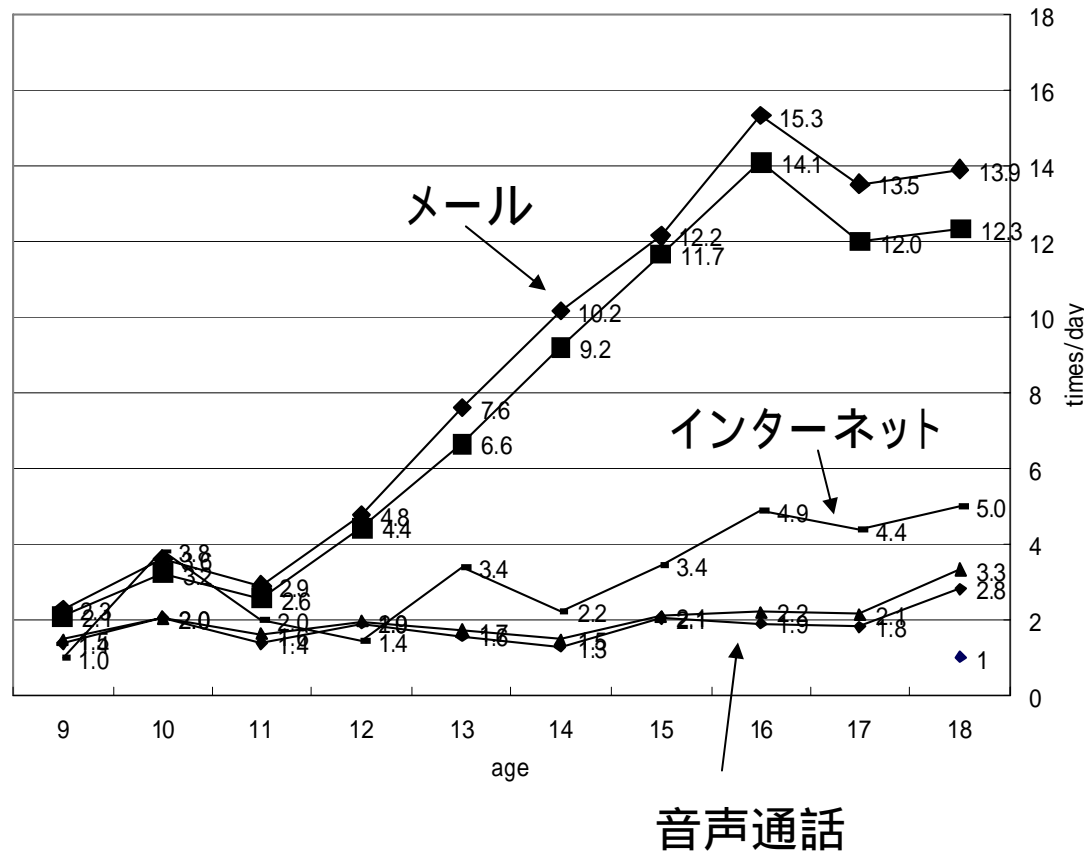
- 安定しているのはネットワーク外部性と年齢効果

- ネットワーク外部性の強さは

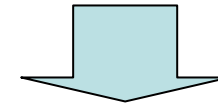
中国(0.44) > 日本(0.23) > メキシコ(0.20) > インド(0.10)

の順である。



子どもの携帯の利用実態：一日に通話とメールを何回使うか(年齢別)



- 一日の利用回数を聞くと利用頻度の伸びは圧倒的にメールである。
 - 中1:7回、中2:10回、中3:12回
 - 高校で12~13回で安定
- ネットアクセスは緩やかに上昇。
- メールの手先を尋ねると圧倒的に学校の友人である。



ネットワーク外部性は友人とのメールでのやりとりで培われる。



子どもの携帯保有とその影響 －五カ国比較調査－

モバイル社会研究所
向田 愛子

子どものケータイ保有後の影響

1. 子どもにとってのケータイの必須度:

- 子どもはケータイを日ごろ何に使っている？
- どんな子どもがよりケータイを必須だと感じている？

2. 情報メディアへの信頼:

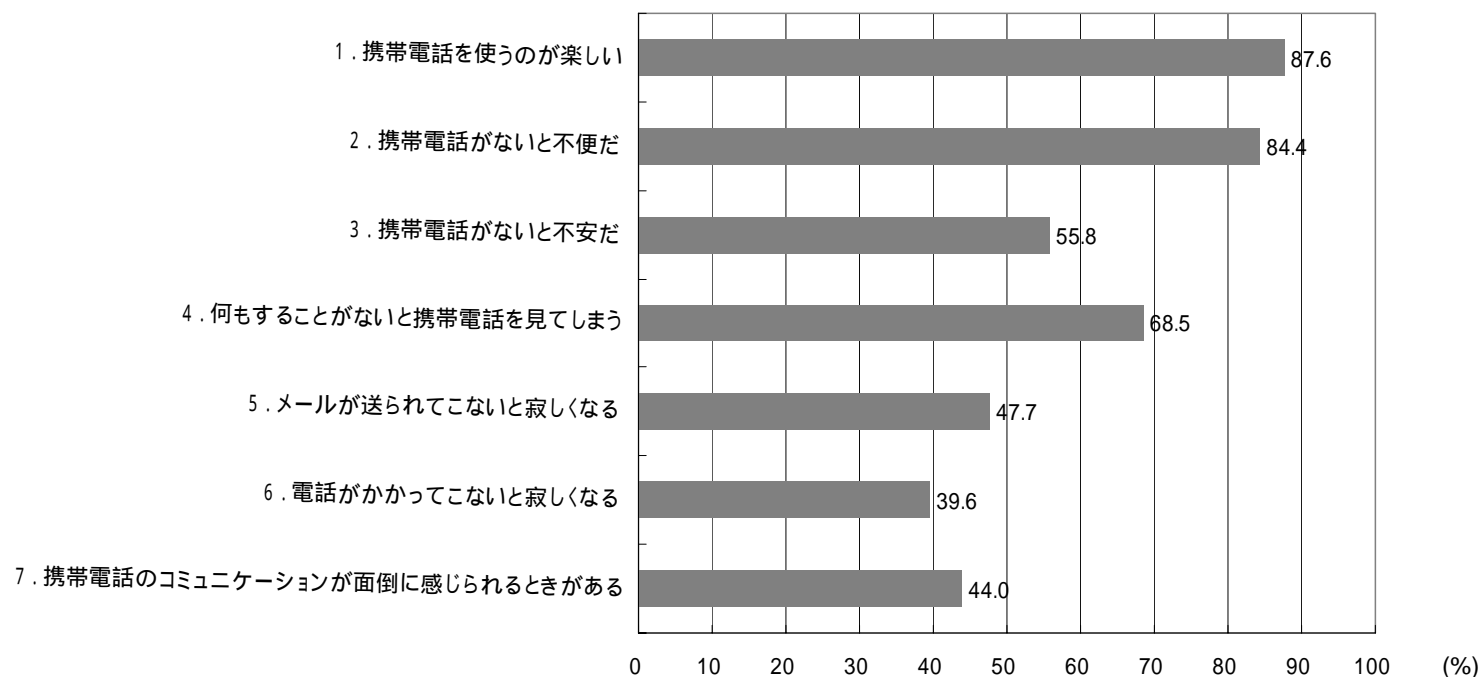
- ニューメディア(PC・ケータイ)により多く接触するほど、伝統的メディア(新聞・テレビ)を信頼しなくなる？

3. 親の懸念:

- 子どものケータイ保有の何を心配しているか？
- 子どもは誰からケータイについて学んでるか？

1. 子どもにとってのケータイ必須度

ケータイの心理的必須度 (そう思う+とてもそう思う)



ケータイに対する心理的必須度とケータイ利用頻度及び属性との相関係数

	携帯電話を使うのが楽しい	携帯電話がないと今の生活が不便になる	電話がかかってこないで寂しくなる	メールが送られてこないで寂しくなる	何もすることがないと携帯電話を見てしまう	携帯電話がないと不安だ	携帯電話のコミュニケーションが面倒に感じられる
メールの頻度	1.39	0.51	0.09	0.62	0.89	0.39	-0.13
音声通話の頻度	-0.80	0.58	1.27	0.47	0.82		
年齢	-0.06	0.11		0.05		0.07	0.09
性別 (男子)			-0.34	-0.24		-0.17	

1. 子どもにとってのケータイ必須度：インタビューより

日本・小5男の子：通話は、急いで連絡をとりたい時に利用する程度で月に0-4回ぐらい。メールは、1日に0-10通程度でお母さん、友達、お父さんと用事や質問がある時に使う。お母さんとは主に日常の連絡、お父さんには送る頻度が少ないが自分が撮った写真を送ったりしている。メールアドレスを知っている友達は、26人の学級で7・8人ぐらい。同じクラスの友達以外も含めてメールの交換をしている友達は、10人ぐらい。遊ぶ約束や待ち合わせ場所の連絡に使っている。

日本・高2男の子：中学校の時は、携帯電話を持っている友達と持っていない友達の割合は、半分ずつぐらいだったので、携帯電話を持っていないことで仲間外れになることや、不便に感じることはなかった。でも、高校になると友達のほとんどは携帯電話を持っているので、連絡手段として携帯電話が必要だと思う。同じ学級の中でも33人中32人が携帯電話を持っている。

日本・中2女の子の親：中学校の演劇部に入っていて部長からの事務連絡がメールで送られてくるため、日頃からメールの送受信が出来る携帯電話が必要となった。

メキシコ・10歳女の子：携帯電話は緊急時に両親へ連絡するために持っているので、かけるときは両親へはかけるが、友達へはそれほどかけない。友達へは、何か話がしたいときや宿題に関して相談するときにかけることもあるが、家にいるときは家の電話を使うほうが多い。SMSは通話よりもよく使う。学校に着いたとき、学校を出て家に帰るとき、何かあったことを両親に伝えるときに使うことが多く、1日に3、4回ほど送信する。携帯電話はクラスメイトのうちほぼ全員が持っている。

インタビューから、子どもたちの日常的に利用する身近なツールとなっていることが伺える。

1. 子どもにとってのケータイ必須度

8割以上が「携帯電話は楽しい」、「無いと不便だ」、5割程度が「メールや電話が来ないと寂しい」、6割以上が「暇な時携帯を見て」おり、「携帯が無いと不安」を感じている。

インタビューからも、子どもたちの日常生活でごく当たり前に利用するツールとなっていることが伺える。

子どもにとって、ケータイが必須化しつつある現状であるといえる。

とはいうものの、

本当に子どもにケータイは必要か？ コミュニケーション過剰では？

現状のコミュニケーション不足を埋めるツールとして機能している？

さらなる議論が必要

1. 親にとって、子どもがケータイをもつ必須度：インタビューより

日本・小5男の子の親：学校は、携帯電話の持ち込みが禁止になっているので、自宅に帰ってきてから利用している。親から連絡をとりたい時に携帯電話の電源が電池切れしていることも度々ある。共働きしているので連絡が取れないのは困る。

日本・中2女の子の親：放課後に週に3日の割合で習い事をしているので親との連絡手段が欲しかった。

メキシコ・10歳女の子との親：(子どもは)スクールバスで通学しており、親と一緒にいないときには何があるかわからないという心配があるが、ケータイをもたせて以来子どもがどこにいるかわかるので安心できる。

メキシコ・17歳女の子の親：携帯を持つことは今では社会的に必要性があると感じている。下の子どもにも、本人がある程度お金をためたら、多少足してあげて買ってあげようと思う。ただしほしいといったらすぐにあげるというのは教育方針に反する。

親にとっての利便性から、子どもにケータイを持たせたいという気持ちが読み取れる

1. 親にとって、子どもがケータイをもつ必須度

日本・中2女の子の親：世の中で問題とされているような深夜のメール利用も(うちには)ルールがあるので我が家では問題となっていない。また、迷惑メールの対策や、Webサイト閲覧に関する教育は、学校でもおこなってくれている。だが、母親からの関与が難しくなる年頃の男の子をもつ保護者は、子どもが携帯電話でどのようなコミュニケーションをしているのか心配しているケースが多いようだ。

メキシコ・13歳男の子の親：携帯電話は、子どものクラスメイトのほぼ全員が持っているが、子どもには金銭感覚を身につけさせたいと思っているため、自分でお金をある程度貯めたらそれに少しプラスして携帯を買ってあげようと思っている。ハイテクなものが流行っているが、それによって家族間のコミュニケーションがなくなっていくのは良くないと感じている。母親として子どもとのコミュニケーションは携帯を通してではなく、ダイレクトにしたいという気持ちもある。携帯をもたせる時は、コスト感覚をわからせるために上限額を決めることと、プリペイドにすることは決めている。機能もシンプルなものにしようと思う。

メキシコ・13歳男の子の親：子どもは友達とコミュニケーションするためにほしいと思っているはずだが、親としてはケータイを持つことで注意が散漫になることを心配もしている。子どもがケータイにコストがどれくらいかかるかを十分に理解してから携帯を使って欲しいし責任をもたせたい。簡単に子どもに携帯を持たせる人も多いが、インターネットでポルノなどの映像をダウンロードしてしまうこともあるのだし、問題だと思う。携帯電話は中学生には必ずしも必要なものではないと思う。

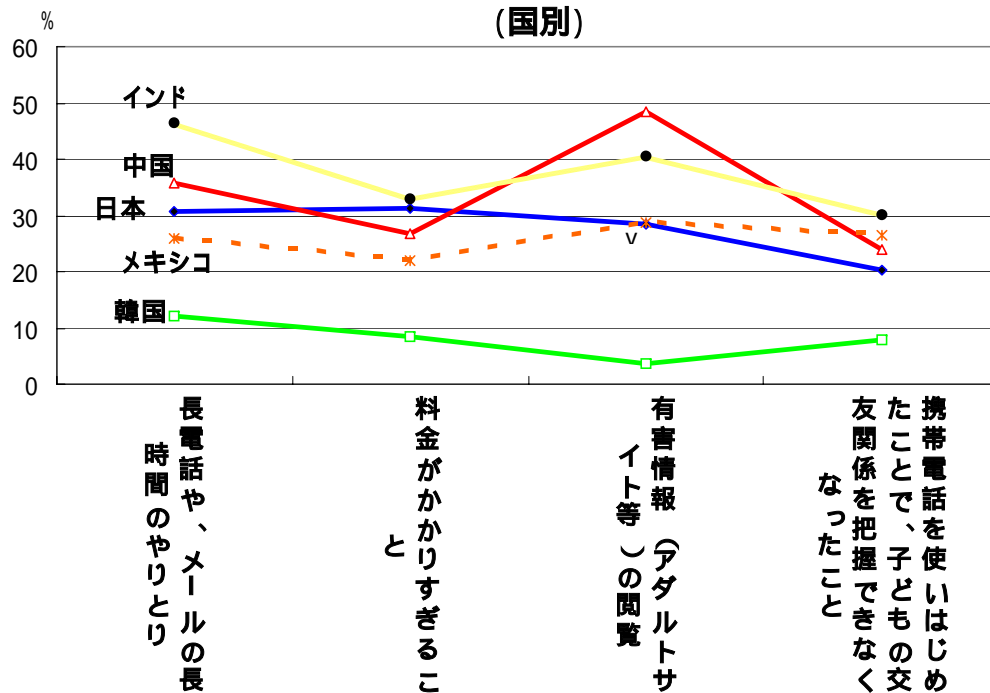
子どもにケータイを持たせることに対する心配が読み取れる

2. 親の心配の実態：子どものケータイ利用の懸念点とは

Q: お子様は携帯電話を持つことで、心配だと思うかどうかお答えください

	よくそう思う	よくそう思う+時々そう思う	(%)
長電話や、メールの長時間のやりとり	30.2	69.7	
料金がかかりすぎる	24.3	62.5	
有害情報(アダルトサイト等)の閲覧	30.0	60.5	
携帯電話を使いはじめたことで、子どもの交友関係を把握できなくなったこと	21.8	61.0	

子どものケータイ利用に関して心配する親の比率
(国別)

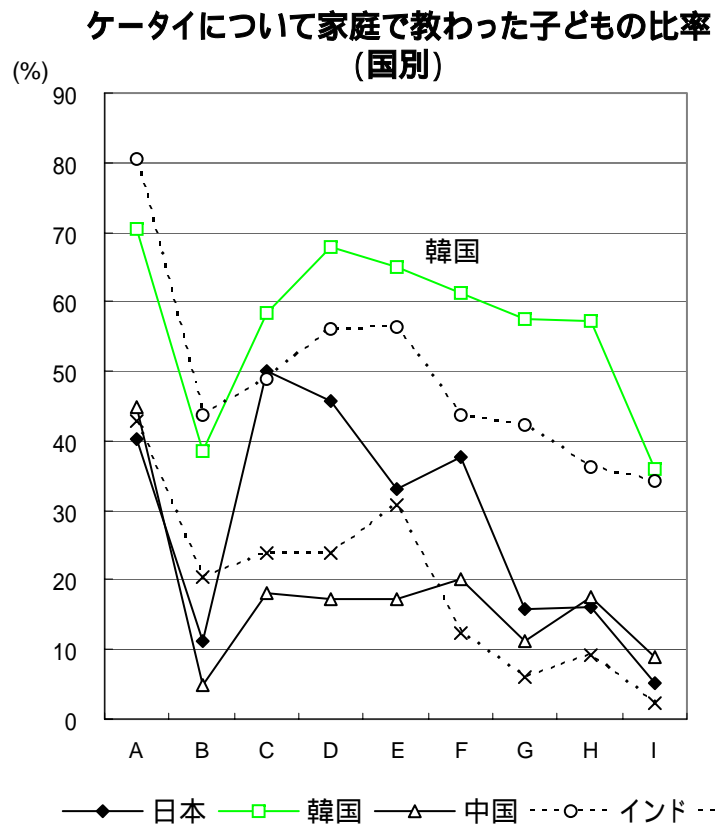
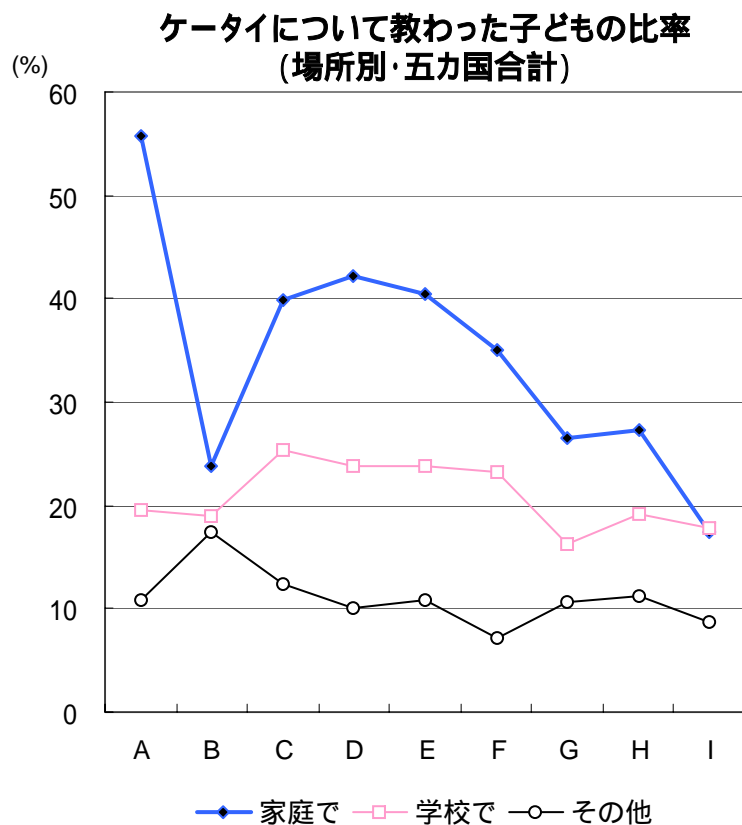


平均60%以上の親が子どものケータイ利用に関してなんらかの懸念を表明している

国別では韓国の親の懸念が非常に低い

2. 子どものケータイに関する学びの実態：誰から何を教わっているか

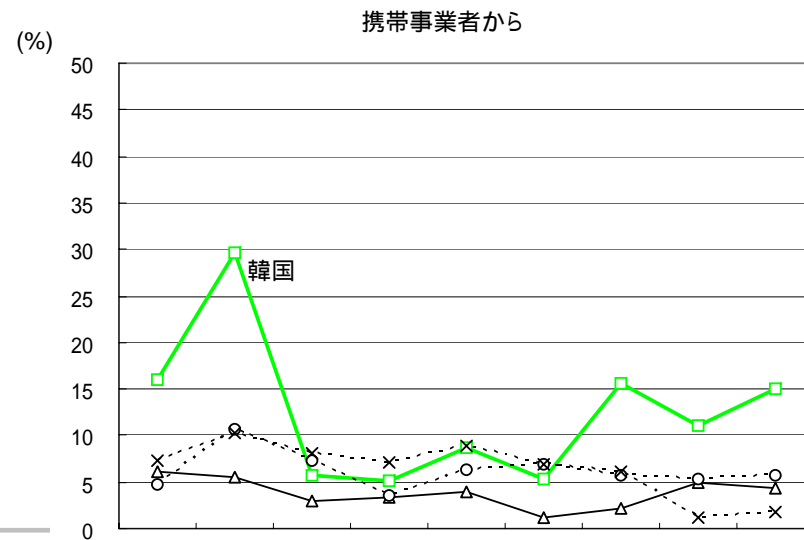
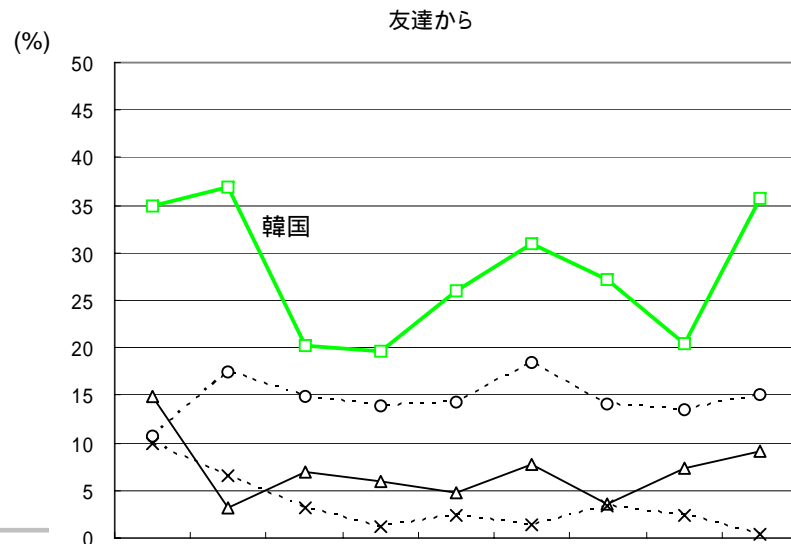
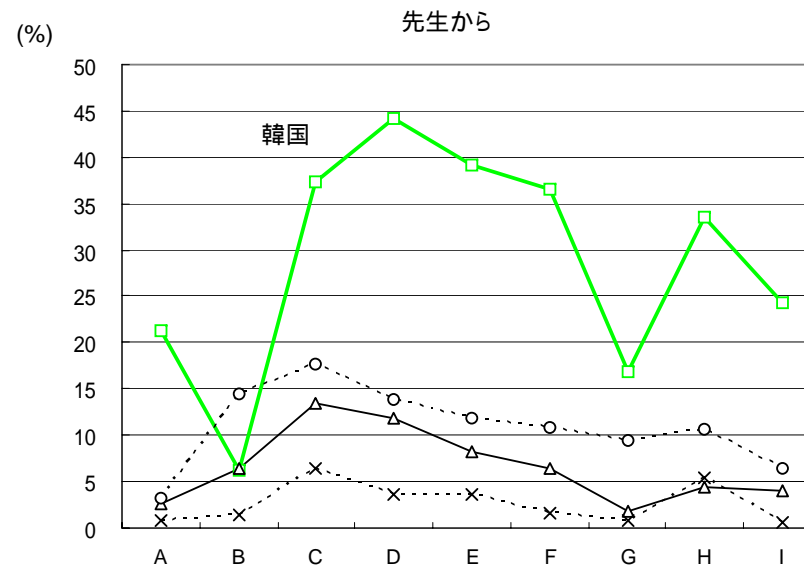
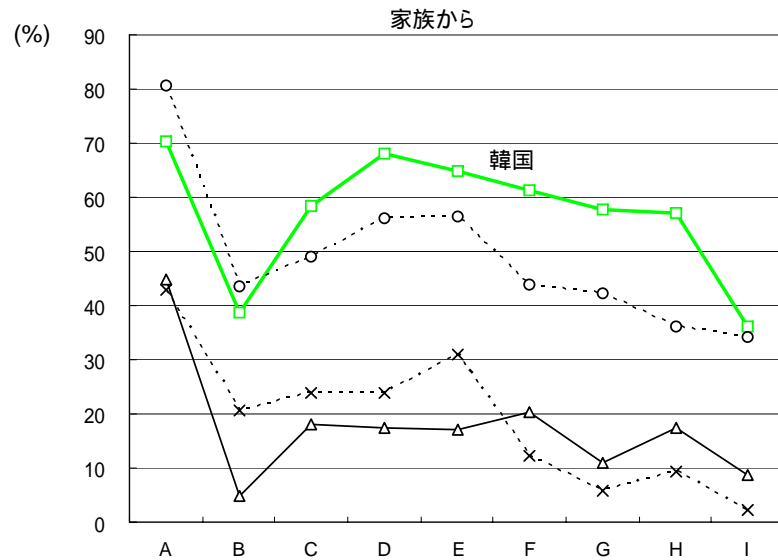
Q: 携帯電話の使い方など以下の項目について教わったことがありますか？また、どこで教わりましたか？ (MA)



- A 携帯電話の操作方法
- B 携帯電話の技術的な仕組み
- C 携帯電話を使ってはいけない場所(病院の中など)
- D 人が集まる場所での携帯電話利用のマナー
- E 安全な利用方法(犯罪予防)
- F 電話で話す際の言葉づかいや、メールの文章などに関するマナー
- G フィルタリングサービスの説明
- H 電磁波の影響についての説明
- I 携帯電話を利用した学習の方法

●子どもたちはケータイについて、家庭で教わる比率が最も高い。

2. 子どものケータイに関する学びの実態：韓国の子どもが教わる比率



●韓国の子どもはケータイについて教わる比率が圧倒的に高く、又より多様な相手から教わっている。

2. 親の心配の実態と子どものケータイに関する学びの実態を考察

- **親の懸念:**

- 平均60%以上の親が子どものケータイ利用に関してなんらかの懸念を表明している
- 韓国の親は子どものケータイ利用に対して、あまり心配していない

- **子どものケータイに関する学び:**

- 韓国の子どもはケータイについて教わる比率が圧倒的に高く、又より多様な相手から教わっている

つまり

ケータイについての学び(=ケータイリテラシー)を得る機会を増やすことで、親が子どものケータイ利用について心配する状況を改善できる可能性あり

3. 情報メディアに対する信頼: 推定結果

Q: あなたは、次の情報メディアを利用されていますか？

- 対象: テレビ・ラジオ・新聞・パソコンインターネット・モバイルインターネット・雑誌
- 選択肢: ほとんど利用しない・30分未満・30分以上1時間未満・1時間以上2時間未満・2時間以上

×

Q: 次の情報メディアをどれくらい信頼していますか？

- 対象: テレビ・ラジオ・新聞・パソコンインターネット・モバイルインターネット・雑誌
- 選択肢: 信頼している・やや信頼している・どちらでもない・あまり信頼していない・信頼していない

3. 情報メディアに対する信頼: 推定結果

ケータイ利用頻度及び属性と、メディアに対する信頼との相関係数

	A	B	B-A
	新聞・テレビに 対する信頼	PC・ケータイに 対する信頼	
新聞・テレビ利用頻度	0.13		-0.12
PC・ケータイインターネット利用頻度	-1.80	0.13	0.21
ケータイメール利用頻度		0.02	0.02
年齢			
性別 (男子)			0.17
親の学歴 教育支出	0.06		
韓国		0.33	0.59
中国			
インド			
メキシコ		1.71	2.18

- PC/ケータイインターネット利用頻度のメディア信頼への影響が安定してみられる
- ケータイメール利用は、PC・ケータイへの信頼にプラスに働き、新聞・テレビへの信頼にはマイナスに働く

”Children’s use of mobile phones” (英文)
全文ダウンロードできます
<http://www.moba-ken.jp/topics/090210.html>

ありがとうございました。